

2025年度 町田市立南第一小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和6年3月31日

学校教育目標 ○深く考える子ども(自分で学ぶ みんなで学ぶ) ○粘り強い子ども(なりたいたい自分を目指し やり抜く) ○助け合う子ども(違いを理解し 力を合わせる) ○元気な子ども(望ましい運動習慣 生活習慣)	学校経営の重点 ○地域と協働したキャリア教育を土台にして、学びに向かう力を育成するとともに、自ら学び続ける力を支える基礎学力の伸長を図る。
○目指す学校像………将来への希望を抱いて 高め合える学校 ○目指す児童・生徒像………なりたいたい自分に向かって、自ら学び、仲間と学び合う子ども ○目指す教師像………職務に責任とやりがいを持ち、自己研鑽を重ねながら児童に愛情をもって指導ができる教師	重点目標の成果と課題 【成果】児童アンケートでは「分かりやすい授業」「夢4を発揮した学習」などが90%以上と高く、学びに向かう意欲は育まれている。また、基礎基本についても肯定的評価が高く、基礎学力の伸長は図られている。 【課題】地域人材の活用やキャリア教育の実施率にばらつきがあり、教育課程への位置付けの徹底が必要である。また、授業改善やICT活用の取組が学級間で十分に安定していない。さらには、学びを支える体向上や生活習慣の定着に継続的な改善が求められる。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価 記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	授業等の公開や積極的な情報発信を行い、教育活動への理解を図る。	学校(学年)だより、専科だよりやホームページで、保護者のニーズに配慮した分かりやすい情報を発信する。	4 週4回以上の更新 3 週3回以上の更新 2 週2回以上の更新 1 週2回未満の更新	4	A	A 学校評価アンケート③「情報発信」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート③「情報発信」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート③「情報発信」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート③「情報発信」肯定的評価 55%未満	94	A	本項目全体としては、「情報発信」「教育活動公開」「学校運営協議会」との連携は「いずれも自己評価A、学校評価アンケートにおいても90%前後の高い肯定的評価を得ている。一方で、家庭・地域との信頼関係は概ね良好に構築されている。また、学校HP等の更新、教育活動公開、地域との一体感、では成果が見られ、継続的な取組の成果が表れている。一方で、学校運営協議会での情報共有は十分に行われているが、実際の授業場面への具体的な活用率にばらつきが見られることが課題である。	① 地域連携の「教育課程への明確な位置付け」 ・年間指導計画に地域人材活用場面を明示し、必須実施単元を設定する。 ② 実施率向上のための仕組み化 ・学期ごとの実施状況を可視化し、職員会議で共有する。 ③ 地域人材コーディネーター機能強化 ・授業支援メニューを一覧化し、教員が活用しやすい環境を整備する。 ④ 保護者への「学習効果」の見え方 ・地域連携授業の成果をHPや学校だよりで積極的に発信する。	・運動会等で「親子競技」があること ・各学期の公開はとも良い時間だと思う。 ・開かれた学校であり、常に子供たちの成長を考えてくださっている。 ・「主体的な学び」・学びの発表会は今後も継続してほしい ・教育活動の公開や情報発信は評価できます。もっとアピールしてもよい。	A
			学校公開、学校(学年)行事等積極的な公開とともに、保護者や個人面談を通して良好なコミュニケーションを図る。	4 90%以上のクラスで意識して取組を実施 3 80%以上のクラスで意識して取組を実施 2 70%以上のクラスで意識して取組を実施 1 意識した取組を実施したクラスが70%未満	3.9	A	A 学校評価アンケート④「教育活動公開」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート④「教育活動公開」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート④「教育活動公開」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート④「教育活動公開」肯定的評価 55%未満	95	A				
確かな学力の育成	子どもが主体的に学び、教師が導く授業改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確かな習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。	「分かる・できる・参加する」授業を目指し、授業をデザインする8つの取組に基づく授業を展開する。	授業改善シートやUDチェックシートを活用し、児童が理解できる授業を実施する。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	2.7	C	A 児童アンケートで80%以上が「分かりやすい授業」と回答 B 児童アンケートで70%以上が「分かりやすい授業」と回答 C 児童アンケートで55%以上が「分かりやすい授業」と回答 D 児童アンケートで55%未満の授業で実施	低97% 高96%	A	児童アンケートの結果が高い水準を示している。児童の実感としては、授業の分かりやすさ・意欲・基礎基本の定着も高く評価されており、授業改善の方向性は見えてきている。一方で、教員側の実施率自己評価は組織的実施率にはばらつきが見られる。児童の満足度は高いが、取組の徹底度・組織的実践の安定性には課題が残る特にICT活用は教員自己評価79%(B)であり、授業改善の質的向上と実施率向上の両面からのアプローチが必要である。	① 授業改善の「型」の共有と徹底 ・授業改善シート、授業改善プラン等を学年会での振り返り資料として活用する。 ② 実施率向上のための進行管理 ・学期ごとに実施率を数値で確認していく。 ③ ICT活用の質の向上 ・「使うこと」から「学びを深める活用」へ視点を転換する。 ・協働的学習・思考の可視化につながる活用事例を蓄積する。 ④ 児童の高評価を成果として分析 ・形式的実施ではなく、効果的実施のモデル化を図る。	・学ぶ楽しさを実感できる子、できない子がいるのが難しい ・「わかる、できる、参加する」の目標は継続してほしい ・補習に力を入れるなど、学びの平等性は評価できます。 ・先生方の工夫を感じることができます。	A
			児童の学習状況を把握し、系統的な指導を通して基礎基本の定着を図る。	4 90%以上の授業で意識して指導 3 80%以上の授業で意識して指導 2 70%以上の授業で意識して指導 1 70%未満の授業で意識して指導	3.1	B	A 学校評価アンケート⑦「基礎基本の定着」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート⑦「基礎基本の定着」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート⑦「基礎基本の定着」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート⑦「基礎基本の定着」肯定的評価 55%未満	86	A				
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にすること意識・意欲・態度を育てる。	多様な人との関わりを通して、自己理解・他者理解を深め、自己有用感を高める。	キャリア教育の4つの能力の活用し、児童が学ぶ意欲をもち、目標に向かって学ぶ授業を実施する。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3.1	B	A 児童アンケートで80%以上が「夢4を発揮して学習した」と回答 B 児童アンケートで70%以上が「夢4を発揮して学習した」と回答 C 児童アンケートで55%以上が「夢4を発揮して学習した」と回答 D 児童アンケートで55%未満の授業で実施	低92% 高90%	A	児童アンケート結果が非常に高い水準を示している。児童は自己生活の中で自己有用感や自己理解を実感しており、自治的活動の充実が確かな成果につながっている。児童の実感値は高いものの、保護者評価および授業実施率の面では安定性に課題が見られる。特に道徳授業の実施率が2.7(C)である点は、組織的・計画的な指導の徹底に改善の余地があることを示している。	① 自治的活動の教育的価値の明確化 ・縦割り班活動や行事後に必ず振り返りの時間を設定する。 ② キャリア教育の一層の体系化 ・「夢4」の視点で道徳・特活・総合と関連付ける。 ③ 道徳授業の質的向上と実施率改善 ・道徳科の年間指導計画の進行管理を徹底する。 ④ いじめ防止の見え方 ・月例会での検討内容を職員間で共有し、組織的対応を明確にする。 ・未然防止の取組を保護者にも発信し、理解と安心感を高める。	・SNSでのいじめなどもあって、昔とは変わってきている。学校だけ、家庭だけでは対応は難しいのではないかと ・自己肯定感の構築ができるように「褒める」ことが大事 ・SNSの課題について共に向き合っていきたいです。 ・多くの人のつながりの中で、大切なことを学んでいってほしい。	A
			ICTを活用して、学びを深め広げる協働的な授業を行う。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	2.7	C	A 教員自己評価で80%以上が肯定的な回答 B 教員自己評価で70%以上が肯定的な回答 C 教員自己評価で55%以上が肯定的な回答 D 教員自己評価で55%未満の肯定的な回答	79	B				
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	日常的な運動及び健康教育・食育の充実させ、体力の向上を図る。	家庭と連携した「元気もりりウィーク」を毎学期実施し、生活リズムの見直しと改善、定着を図る。	4 年間活動計画の90%以上で実施 3 年間活動計画の80%以上で実施 2 年間活動計画の70%以上で実施 1 年間活動計画の70%未満で実施	2.8	C	A 児童アンケートで80%以上が肯定的な回答 B 児童アンケートで70%以上が肯定的な回答 C 児童アンケートで55%以上が肯定的な回答 D 児童アンケートで55%未満の肯定的な回答	低98% 高97%	A	安全教育・安全体制に関する項目は高い成果を示している。組織的な体制づくりと継続的指導が安定して機能していることが分かる。一方で、運動・生活習慣の改善に関する項目では、実施率および高学年の意欲面に課題が見られる。学校評価アンケート(食習慣・生活習慣)は83%(A)と一定の評価を得ているが、取組の実施率との間にギャップがある。安全体制は確立しているが、体力向上・運動の日常化には学年差と実践の徹底度に課題がある。	① 「元気もりりウィーク」の質的改善 ・単なる取組期間で終わらず、結果のフィードバックを行う。 ・成果を可視化し、児童の達成感につなげる。 ② 高学年の運動意欲向上策 ・体力テスト結果を個別にフィードバックし、目標設定を行う。 ③ 体育授業の質的向上 ・「できた」「伸びた」を実感できる授業デザインの共有。 ・運動量確保と技能習得の両立を図る授業改善研修の実施。 ④ 運動の日常化 ・休み時間の外遊び推進策を具体化する。	・学校で元気にしていれば、帰宅後にメディアの時間が増えてもよいのではないかと ・校内の安全対策が素晴らしく、安心している。 ・「元気もりりウィーク」に加えてレベルアップしていきような工夫があることよい。 ・体力づくりや食育など学校の役割は小さくありません。	A
			体力テストの結果分析を活かした体育の授業改革、体力向上月間、体育集会を通して、運動の日常化を図る。	4 90%以上の授業及び活動場面で実施 3 80%以上の授業及び活動場面で実施 2 70%以上の授業及び活動場面で実施 1 70%未満の授業及び活動場面で実施	2	C	A 児童アンケート「進んで運動した」で肯定的評価 80%以上 B 児童アンケート「進んで運動した」で肯定的評価 70%以上 C 児童アンケート「進んで運動した」で肯定的評価 55%以上 D 児童アンケート「進んで運動した」で肯定的評価 55%未満	低89% 高70%	B				
その他		安全な校内環境を整え、自分と他者双方の命を守る力を育成するための校内体制を確立する。	年間計画に沿った校内生活指導、安全指導、避難訓練等を行い、安全に生活する実践力を育む。	4 月に1回以上、指導実施 3 学期に2回以上、指導実施 2 学期に1回以上、指導実施 1 年に2回以上、指導実施	3.9	A	A 児童アンケートで肯定的評価 80%以上 B 児童アンケートで肯定的評価 70%以上 C 児童アンケートで肯定的評価 55%以上 D 児童アンケートで肯定的評価 55%未満	低83% 高99%	A				
			毎週の職員夕会で、児童の問題行動や校内環境等の課題について共有し、組織的な解決に取り組む。	4 90%以上の必要情報に対して実施 3 80%以上の必要情報に対して実施 2 70%以上の必要情報に対して実施 1 70%未満の必要情報に対して実施	3.8	A	A 学校評価アンケート⑧「安全意識の育成」で肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート⑧「安全意識の育成」で肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート⑧「安全意識の育成」で肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート⑧「安全意識の育成」で肯定的評価 55%未満	85	A				

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ) 取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A 取組指標平均 3以上3.5未満 ⇒ 評価B 取組指標平均 2以上3未満 ⇒ 評価C 取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D	成果指標評価基準 成果指標平均 80%以上 ⇒ 評価A 成果指標平均 70%以上 ⇒ 評価B 成果指標平均 55%以上 ⇒ 評価C 成果指標平均 55%未満 ⇒ 評価D	学校関係者評価の評価基準例 A ⇒ 取組・成果ともに十分評価できる B ⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい C ⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要 D ⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善 ※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。
--	--	---

※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。